

昭和四十二年七月三日招集(第二号)
第二面市議會定例会會議錄

館山市議会第二回定例会議録(第二号)

昭和四十二年七月招集

一七月三日(月曜日)

一議事日程(第二号)

第一(通)告質問

第二議案第三号 館山市税条例の一部を改正する条例
の制定について。

第三議案第三十四号 館山市国民健康保険税条例の一部を改
正する条例の制定について。

議案第三十五号 あらたに生じた土地の確認について。

第四議案第三十六号 あらたに生じた土地を市の区域に編入す
ることについて。

第五議案第四十一号 農業委員会委員となるべき学識経験
者の推薦について。

午前十時 十分開議

議長(志田勇治郎君)

本日の出席議員数 二十九名

これより第二回市議会定例会第二日の会議を開
会いたします。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行な
います。

日程第一通告による行政一般質問を行ないます。

これより通告順により一七番議員江田徳太郎君
御登壇願います。

(一七番議員登壇)(拍手)

一七番(江田徳太郎君)

本日の通告質問の先陣を承わりまして一言市長さん並びに当局にお願いするものでございます。

私の質問の内容はここにございますように市長の施政方針の中で三つの柱を取り上げまして観光産業・教育を主題にして今年度の市政担当を行なうというところで私はこれを一つ一つ伺っていきますと思います。

第一に本市におきましては観光を主体としていく。市長さんとして当然のことであると思いますがそこで毎年いろいろな施策を講じまして今年度もいろいろと海岸その他に事業をやっておりますことはよくわかっておりますがなかなか一朝一夕には進んでいかない状態でございます。

道路といたしましては東京・館山間は全舗装になり

車両の増加が日増しに激しくなり交通の面では大へ
 人混雜しておりますが館山市とりたてまうくは道路が
 狭いために産業面観光面にはまだまだの状態でございます
 います。館山は千葉県南端とりて南房総国定公園
 として全国に知られつつある状態であつて、今のところ
 館山市におきまうくは、実際にはまだまだ見るものか
 いようにも考えられます。それが本当に残念でならない
 のであります。がさういふにいたてまうて今年、神戸
 には館山カントリークラブのゴルフ場またフラワーレー
 そこにやしの並木もできて相当に立派な道路もでき
 一歩前進したような形でございます。であります。が
 観光客の誘致の面からはまだまだ市では十分な力
 を入れてさうして南房総のますます発展を願う
 ものでござります。

そこで私はただ単に館山だけではなく、この問題はどうかとも隣接町村と力を合わせて地域開発と公共施設社会経済の向上をはかり、そういう意味をもちまして十分これを考慮し、この際合併推進をはかり地域行政の面からもせむとも進めてもらいたいものでござります。ときどき新聞紙上にも出ておりますが新聞では鶴南町から白浜町乃至は郡市を一元とてというようなこともいわれております。でありますか、これはなかなか簡単にはいかな、と思っております。そういう関係からいたしまして私は前にも通告質問でも申しました、が身近かなところで申し上げますならば、富浦、三芳、白浜というようにいろいろの面から、一番手近かであるという考えを持っておりますものでござります。

先般市長さんはそれとなく各町村長にお話しな

さつたそうでございます。が、その後まだ別にこれと
 あれもございませんが、今までは何か県でも、安房
 郡内に三つを作るんだ、鋸南市、朝夷市、長狭市とい
 うような市を作るのだというふうな広域行政面
 につきまゝてこれが進められておったのでございます。それ
 もまゝ三月に時間切れになったと聞いております。
 そのため新聞紙上でもいろいろ報道されておりますが
 私は今回特に今まで申し伝えられております富
 浦、三芳、白浜、これは第一に観光面といたしましては
 特に密接なものであります。またその他三町村で水
 道組合、伝染病組合、今回は水不足で白浜から
 水を供給されておるといふ状態でございます。手付
 かな状態になつております。そういう関係からいたし
 まゝ、私はここに強く市長さんに提案して、前にもこ

の議会で合併に対する委員会でも作つたらという
お話しもあったんですが、それもそのままになっておる
ような状態でありますのでぜひ私はこの際市長さん
に提案いたしまして、これを進めてもらつて市の開発
と一と観光面からしてぜひともこれを実現していただ
きたいと思つたのでござります。

第二に産業部門でござりますが、商工業、農漁業者
育成のために今回特に当局の誘致によりまして、国
民金融公庫という国の機関が支店設置に成功さ
れまして、ここに支店の設置を見ることに決定にな
りました。それに対しては、これは市の商工業
者並びに農漁業者の福音である、私は信ずる
ものであります。これは市の行政面から意義ある
ものであつて、これを生かしていただきたい。金融公庫

の問題につきまゝては、いささか自分も関係してゐる
 関係上、少し皆さま方にこの問題を申しヒゲてみた
 いと思ひます。これは金融公庫でありまして、国の資
 金であります。各銀行とは異つております。預貯金
 はいたしません。一切貸し付けただけのものでござります。
 でありますので、銀行その他には全然関係ござりません。
 そうして商工業者の福音ということは、これを低利に
 貸し、償還も簡単に複利で返しております。

そういうために、ただいまでも市では全部を合わせま
 すと二億円の融資を扱つてゐる次第でござります。
 そういふ関係からいたしまして、今回は市の支店とし
 て出ましたものは、君津、安房、夷隅と関係します。
 そのため、市がこれを当然、市の業者の発展、育成に
 使うことは当然であると思ひます。そのために育成をと

う扱ってくれるかということでございます。今年度にいたしましても、市の預託金として二千万円、市は預託してそれを保証して商工業者に貸し与えております。そういう面からいたしましても、この金は莫大なものでございます。預託はせず金利は安い、そうして市に責任はございません。そういう状態からいたしましてこの取り扱いにつきましても、私は市は完全の策を講じられ、中小企業の育成につきましても、どのように今後これを扱ってくたさるかという点をお伺いいたしております。これが第二でございます。

第三は、教育の面からいたしまして、標題にございます通り、教育関係につきましても、先般来より市長の三つの柱のうち今年度は教育に對して市民センター、房南中学校の建設及び旭小学校の老朽校舎新築に

伴う用地買収というような大事業を大予算を組んで教育の面で推進して行く考えでおります。これは教育は本当に大へんな面でもございりますが当然行なわれなければならぬ。力を入れべきものであると思ひます。そういう観点からいたしましても私は地条や学校の移転建築が用地買収という事態が起こりまして、小学校の移転決定が決定づけられたと、ここにうたわれたと思ひます。

そういう点から一昨年からいろいろとこの面には論議されまゐたがいろいろ検討されそうして今年度は用地買収予算を計上された。徐々に進めつつある状態でございます。これはなかなか容易ならざることであります。問題があると思ひますが、ここまできたのでありますから、本腰を入れて本気になつて進めてもらいたい、ということとを

ぜひお願いするものでございます。

ただ付近住民は今まで地元の小学校に何十年とう
長い小学校がありまして付近の住民の温情と申し
ますか、今まで通学生に對して相当めんどうを見て
きておるようでございます。

今交通面にしてまいても小学校の登下校には相当
力を入れてこれを見守つております。そういう長い間
の伝統でございます。

そういう点からやはり秘転という二とになりますと、近
所の皆さま方におきましては、これをどうするのだと聞か
れるのでございます。

市当局並びに学校としてまいれば、今後これをいかに
生かすかという二とが問題でございます。その点につきま
して、付近住民は何とかこの学校の跡を残していきな

いという面からいろいろと論議してあります。

先般は校地を他に売り付けるとかいう面がございまして論議されましてたがそういう面が行なわれるのかまた学校の跡地処分をどう有効に利用していくか、この呉市長さんに今までの小学校の今後近所の問題、これらを市のためによくお考えくださいます。跡地の開発、跡地の処分をよろしく願ひまして、措置していただきたいと思ひますとともに並心にお伺いするものでございます。終り。

(市長登壇)

市長(本間 譲 君)

ただいま江田議員から御質問がございまして、からこれに打ちまして私の考へ方につきまして申し上げたいと思ひます。

第一番目は観光の対策として、近隣町村の合併をどう考えておるか。こういうことのようでござりますが、これは県におきましても広域行政というたてまえで、いろいろそういう方針で例えれば房州の方は千倉を中心とした一つの広域行政区域、鴨川を中心とした区域、鋸南を中心とした広域行政区域、こういうふうに進められておるわけであり、私はこの原則のときも申上げました通り、議員の方からもそううお話ーがござりましたわけでござります。

私はやはり今日の時代に処していきますにはどうしてもひとりの観光の振興ばかりではございませんし、産業の振興あるいは文化の向上、あるいは教育、いろいろの関係から、まして規模の大きな大体十萬都市程度の都市を作り上げるということが私は望まし

いことではなしかと考へてゐるわけでございまして千
 房を中心としましてブロックが合併の気運もあり
 まゝたのでその前にいうこととて去年でいたか白浜三
 芳・富浦の町村長さんをお集まり願ひまして今後一
 諸にならうやうていつたらうかがですかということとて互
 いに研究して見ましようということとて別れてゐるわけ
 でござりますが現在はおつと広い範囲の地域を周辺を
 統合してやるということが私は望ましく思ひます
 が果におきましてもやはりそういうことを従心涌心して
 おるわけでございましてその考へておりますけれども
 まだ合併に對する利害とかいろいろ基本的構想がま
 だきまつておらないうわけでございましてこれを本年は
 せうとも想をきめて議員の方々とも御相談しま
 してさうして委員会かなんかを設けてこの問題を取

リ組んで参りたい。二ういうふうに考えます。なかなか
かこの問題は一朝一夕にはいかな面があると思われま
すけれども、やはりこちら呼びかけて、いろいろP.R.等を
しく推進して行くことがやはり手近かであるし、やらなけ
ればならないわけでございます。館山は南房統の唯一
の都市でございますからやはり館山を中心として開け
て行くことが、いろいろの面でいいんではなしかと考えまして、
この基本方針がきまり次第、皆さん方にも御相談を申
し上げまして前進していきたい、こういうふうに考え
ておるわけでございます。

それから館山金融公庫支店設置に付してどうい
うふうに今後指導して行くかというお尋ねでございま
す。金融公庫の誘致につきましては、今から六七
年前になります。が館山市、商工会議所、融資償還

会の方々が非常に熱心に誘致を運動してわけでございます。江田さんは償還会の方で率先してこの問題には取り組んでやられてその点本当に権威を表わしたいと思うわけでございます。しかしながら私も何回も参りましてけれどもなかなか全国的に見ますといろいろ要望がたくさんございまして、館山には番が回わってこない面がたくさんあって非常に難点があります。たゞございますけれども、こういうことは政治的に大きく働かなければいけない。こういうことでございまして、水田現大蔵大臣が政調会長のときでありますたが、いろいろ前からお願いしておりましたか、ぜひ一つ実現をするように特にお願いいたしたいということで申し上げたわけでございますが、それから水田さんは金融公庫の總裁をお呼びになりました。いろいろ懇談されて、大

は政治力によつて館山市に支店が設置することにな
つた。こつこつといふことは実情であるわけだ。こつこつといふて、千
葉県では千葉にあるだけだ。その次に館山。こつこつといふこ
とで二カ所といふわけだ。こつこつといふ。この誘致につ
きまして決定を見たわけだ。こつこつといふので、現在市と
いたしましては、償還会の方々とともに位置をいろ
いろ心配してゐるわけだ。こつこつといふが、なかなか金融公
庫の方も政府機関でございまして、なかなかせりたくを
いつておりますし、こつこつといふかといふと狭いとか何とかい
つておりますが、大体目算がついてゐるわけだ。こつこつ
いふが従業員の仕事につきまして、江田さんが非常
に心配してくださいます。何軒か確保されてゐると
いうことで積極的に心配してゐるんですが、市とし
ましては店舗の改造とか必要なものに對してはこれ

に對してある程度の手伝いをしてなければいけないのではなからうか。こういうふうに考へるわけでもございませう。いずれにしても今度支店ができましたことは美濃郡、勝浦、安房郡、館山市、木更津、君津郡、こういうようなところが区域になるういんですが、これらに関連する中小企業者、勤労者は非常に喜ぶべきことと思つてゐります。

今までも金融の代理店がございまして、いろいろやつておたわけでもございしますが大きな金額になりますとやはり千葉支店にいかなければできないわけでもございますから、今度支店設置になりますと現在最高三百萬でございますか、ということでは環境衛生の方は六百萬ということですが、それを二二でおそろく貸し付けができるのではなからうかと思ひますが、館山市発展のためにもまた業者

のためにも非常に私は喜ばしいことと存じてゐるわけ
でござります。

今までの金融にさうにこういつ大きな政府の融資とい
うことがここでごきたわけでござりまして私は産業界に
おける近代化ですかあるいは改善すべき事項がたくさん
ありますがさういふことを大いに指導いたしまして当市の
経済のよりよき発展をはかるように指導して参りたいと
考えるわけでござります。

次に今度地余小學校が移転することについて大体なうてゐる
わけがこのことにつきまゝ三月の施政方針の中にも申
し上げてありますしいろいろ皆さま方にも御相談申し上げ
てやつて参つたわけでござりますが大体地余小學校を
新しくやるにつきまゝ二億四千万程度の金がかかるらし
いんですが、それにつきまゝ市費としては一億六千万を持

ちふさなければならぬというのが現在の考え方でありま
す。御承知のように財政は豊ではございませんけれども
教員月に関することとてすから何とかして参りたいと考
えておるわけとてございしますが最初るときにはあそこ
の土地を売った金でそうして向きの地所を買ふという
ような考え方もあったわけとてございますけれども、た
いま江田議員さんのお話のように現在の市の情勢
からいたしまして市の中心地になりますし、最近の
児童遊園地とかあるいは駐車場とかいろいろの問題が
あるわけとてございまして、市の中央公園的に今後あ
そこをやつていったらどうか。これはあくまでも財政
問題とにらみ合せていくべきではなかつかと思つておるわ
けとてございしますがこれらのことにつきましても議員皆さま
方の御意見、P・T・A、地元の方々、いろいろの方々の御意

見によりましてこれを決定して参りたいというふうに
考へておるわけでございます。以上三点を申し上げまして
お答へにかゝる次第でございます。

○五番（江田徳太郎君）

ただいま市長さんからの御説明で大体了承しております
ますが第一の観光に對する合併問題については何か郡
市を一九に一つというふうな私も新聞紙上で聞か
はおりますが、市長さんもそういう考へをお持ち
しておりますが、なかなかこれは年度がかかると思ひますか
白浜・富浦・三芳位を先にやるという事はできないもの
か、それを聞きたいと思つております。

それからもう一つ産業部面の方からお伺いしますか
今私も申し上げました通り金融につきましては預託
金融を一つ、二千万もやつておる状態で各業者は相当

に金詰りといひますか、回わりがわるいといひますか、そう
いう関係にありますので、これはもう少し市の方で考慮
されまして、商工課におきまして、P・Rして、此の育成をす
るならば、相当金融は回わるということを感じられますので、
この面につきましては、どうぞ市民にP・Rして、万全の策を
講じていただきたいと思つております。その面でもう一回
講じられるような施策が考えられるかどうか、お伺いいた
と思ひます。

学校の面につきましては、今も申されましたように、小学校も
古い伝統であつて、交通の面、いろいろの面で、中央でよろしいと思
つておりまして、狭いといふことで、移動がなされるのであり
ますが、どうぞこれは、館山市の中央でございまして、立派
な今申されまして、公園とか、またいろいろの面で、市民の遊ば
れるというか、ゆつくりとできるような面に、財政の面も、こた

えて立派なものをやっていただきたい。

これは要望しておきます。以上

○市長（本間 譲 君）

ただいま白浜と三芳と富浦の合併はどうか、こういうお話しでございしますが私もそういう考え方で最初おりましてたけれども、最近の情勢からもう少し範囲を広げてやつたらどうか、これはもちろんいろいろの関係がございしますから、そう簡単にはいかならないと思ひます。もっと広い範囲で、鋸南方面までいれたらどうか、二つの方でいろいろ原案を作つて皆さんと御相談して進んで参りたい、このように考えております。

それから金融公庫の利用にフツとでございしますが、現在館山市の預託金融は二千万円でございします。お、その三倍で六千万というところでございしますが、その金額が足

らないという事能うではないと思います。また足らなければ増一といふこととで、この案はいいと思います。しかし産業の近代化とかそういうことをする資金に不足は、大に利用するようにPRして参りたいと思います。PRはせらなければならぬけれども、市の方でもそれらの方々の意にそうように考えていきたい。二ういうふうに考えております。

学校の敷地利用につきまゝはさつき申上げましたように、いろいろの機関の方々と相談して、市会議員の方々ともちろん相談して、財政状態とも考之合わせていきたいというふうに考えております。

〇七番（江田徳太郎君）

ただ、観光面で今申し上げてくださった、銘南町を入れてという広いお考えて結構だと思ひます。あそ

こまどが南房統の一番重大でありまして、外房も重大
であります。手近かばところは鋸南町かうとうことが第
二にされるわけでございますが、せいそうう面におきま
すは、今後促進するようにお願いいたします。私の質問を
終りといたします。

○議長（吉田勇治郎君）

二番議員 石井輝久君 御登壇願います。

（二番議員 登壇）（拍手）

○二番（石井輝久君）

先輩並びに同僚議員各位の御了解を得まして、
つ現在当面しております市政の諸問題の中で特に
重要と思われる次の三點につきまして市長並び
に関係者の所信をただいと存ずるものでござ
います。

第一が公有水面の埋め立て計画と将来計画について
 でございますが公有水面の埋め立てにつきまゝては今
 議会におきまして新たに生じた土地の館山市地域へ
 の編入という議案が提出されておりますが私の中
 し上げます公有水面とはいわゆる地条橋と館山
 桟橋との間の海面埋め立てについてでございます。か
 つてより私はこの海面埋め立ての計画につきまゝてす
 ぐにある程度具体的に話が進められてゐるよう
 に伺つており、果におきまゝても、反知事をはじめ
 首脳部がきわめて熱心であるように身に感ずけ
 るわけでございます。さうには千葉日報紙上に館山
 市の公有水面埋め立てにつきまゝて知事は六月某
 議会に提案される旨の記事が掲載されております
 た。果して六月果に提案されるのでありまじうか。

この辺の計画の進行度合い市長と友納知事ない
いは県当局との話し合いの進行程度について明らか
にしてくいただきたいのでござります。

次にこれに関連したいまいて、将来計画についてご
ざります。

私は残念なことに確定的なマスタープランを身にいたこ
とがないのでござります。千葉県はまさにここの数年未
埋め立てブームにめきたつてゐるといっても過言ではないので
ござります。千葉市、蘇我町の海面埋め立てでこれは川
崎製鉄の用地だったのでもござりますが、この埋め立てに始ま
り、市原郡に波及したために市原郡は埋め立てブー
ムにめきたつたばかりでなく、相つゞ大企業誘致で全
く驚異的な目ざましい発展をとげていることは言を
まつまでもございませぬ。かつてはのりと魚貝類（か）見る

べき産業の多い市原郡であります。それが充足早々の市原
市の予算規模を見ましても、今年度当初予算額が
一般予算で二十五億一千万円でありまして、当市の丁億
二千三百十四万九千円と比べてまさに月とすっぽんの開きと
申しても過言ではありません。

これこそ一にかかって公有水面の埋め立てによる企業誘致
に理由があるのであります。目下のところ埋め立てはさらに
南下して市原郡、君津郡に至りまして、木更津市周
辺、青堀町の周辺はここ数年のうちに目ざましい発展を
とづるに違ひありません。いるかえって、わが館山市を考へ
みるに、この十数年来わきたっている埋め立てブームの波
に乘ったとして一体どのような方向に持っていくつもりでお
るのであります。ようか、まずかに北条棧橋と館山棧橋と
の間の海面約十八万八千余平方メートル位を埋め立て

たとしてどんな企業を誘致できるでありますが、か
エディンゲル社だけの工場敷地は十万余千四百余平方メー
トルなのであります。大に違ひはないではございませ
んか。市原あたりでは富士エディンゲルとは比較できない程度
の大企業が並んでおります。なればこそ大飛躍を成し得た
のでござります。

これに反して当市にありまして企業を誘致する特長
画がない。民間するところによりますと海洋水族館として
海洋プールとかの公園化の計画があるようにも伺つてお
るのであります。もしその通りであるとすれば千葉県
にわきたつておる埋め立てブームとはおおきく本質的に
全く異つておるといふなければならぬ。千葉、市原、木更
津周辺に見られる飛躍的發展を期待するわけにわか
ない。

高い経費をかけて海面を埋め立てればほどの実際効果が期待できるか。その見通しを承けたいのであります。一休全体どんな計画に基づいて企図されておるのであります。うか。計画にはそれがあるはずでございます。確定的なこれという目的もなくわきたフームにつかれどもされただか如く、埋め立て計画を進めるとするともものわういの種とらないものとたれが断言できまじうか。

さらに館山市内の海岸線は減すを重ねております。市内に流れる平久里川、湊川の河口を中心に那古より北条より防波堤が作られつつあります。海岸の侵蝕を防止する目的のこの防波堤はまことに歓迎すべきことございませうか。海岸線が減すすることは申すまでもありません。観光上はまさか若干の問題はありまじようか。館山市としては、この防波堤はまことに結構とい

うべきであります。ところでもし、地余棧橋と館
山棧橋との間を埋め立てますならば、減りつつある
海岸線がさらに一そう減ってしまい、海水浴客の誘致
などに重大な支障をきたすことになるのではなうか
か。この損失を補ってあまりある位の効果が海面埋め
立てによって期待できるかどうか、明確なる御答弁を
承けたいのであります。

第二に予算外支出負担行為についてでございます。

この問題につきまゝては、ごくさうりと触れるつもりで
ございますが、答弁によりまゝては、再質問を申し上げた
いと存じます。

この問題につきまゝて私がまゝとも重大な関心を寄せま
すのは、職員に不安の念を生じ、家族ぐるみの勸誘をきた
すという点でございます。責任者としては、職員に不安、

勲状を与えるような行為は厳にツツミむべきであり
 ましう。ここに一つの例を上げて、今後を戒めるとともに
 職員間に与えた不安、勲状に対して一片の反響もない
 のではないかと思われるふしも何かわれるのであてて、今
 後の方針について若干の質問を試みたいと思うので
 ございます。しかし教育委員会におきましては、昭和四
 十一年度歳入歳出予算として議会の承認を得る
 教育費中、職員給与費で特別職二百四十九名、一般
 職合せて四千四百二十万九千円となつてゐるのでござい
 ます。申すまでもなくこれは現給の方式をもちて計上
 したものであらうかと思われるのであります。が、教育
 長は年度中間の最近、ひとりの現場教員を教育委
 員会のある課に技術要員として入選を進めた事実
 があつたように伺つております。

こつうの事實がございまゝたかどうか、今のためにます
お伺ひいたします。

もしこれが實現せんか、教育長の行為は明らかに地方
自治法第二百三十二條の三の支出負担行為の条項に接
觸したのではなしかと思われ、のでござりますか。この教育
育長はどのようなふうにお考へであるか明らかにしていただき
たいのでござります。この条項は「普通地方公共団体の
支出の原因となるべき契約、その他の行為は法令または
予算の定めるところに従ひこれをしなげればならない」と
規定してあります。つまりひとりの現場教員を他の
職場に新たに採用することは明らかに予算外支出負担
行為となるのではないんですか。

入選の折衝に入つたために現場教員の夫人、細君でござ
ります。必ずしも転勤に同意しなかつたといわれておりま

す。だが本人はいろいろと相談を重ねた結果、教壇を離れることを決意したのだということを伺っております。

後任には産前産後の休職中期間中だったといわれる産休の女子教員が起用されるところまで話が進んだと伺っております。これが実現した場合、予算外支出負担行為として地方自治法に抵触することに賢命にお気づきになられた教育長は賢命な措置としてそれまでの進行した一切の入選取りやめ、自叙に戻したといわれております。これはまことに賢命だったと称賛すべきでありましょうが、具体的に入選を進めたことによつてどんなに多くの人たちに不安を与えたか、あなたはお考えになったことがございましょうか。私は今後こういうた行為が行なれないように強く望むものでございます。不安、動搖を与えたとお考えならそれに對する責任を

どのように感じておられるか。お答之を願います。またこの際参考のために同じような行為が市長事務部局内に行なわれている事実はあるか。人事課長にお伺いし、おきたりのでござります。率直に御答弁をわずらわしいのでござります。

次に第三点といたしましては、千宮対策についでござります。この問題につきまゝては病床にふせておられます市長さんは特別に思ひを農民に寄せられ、ひとり農産課のみならず、市の全職員に對し、問題解決のために尽力せよとの御指示をいたしたさうでござります。

さすがは農村出身の本間市長さんよといった声を聞くわけでございます。また安房神社におりて市会議長吉田勇治郎氏がみずから列席し、雨の祈願祭を催されたことに對して心から敬意を表する次第でござります。

六月二十日に友納知事に打て千恵対策委員長本間謙議会議長吉田勇治郎市農協組合長山崎勝平市農業委員会長中間重則市農業共済組合長佐野一夫代らの連名で緊急対策恒久対策両面にわたる陳情書を提出されまいたまことに時宜を得たものとして賛意を表するものでござりますが世にいう「天災は忘れた頃にやってくる」ということわざの如くおとずれた農業災害に打て市当局はどのようなに考えておられるか根本的な考えをお伺いしたいのでございます。

市内九重の江田地区を例に上げますならば、鶴山市内ばかりでなく、県下で唯一というてもよいと思えますが田の中に電柱が一本もない沃野肥沃な田んぼでござります。それなるが故に農閑期におきまいて陸上自衛隊は

この江田の原におきまゝで落下傘の降下訓練をするのでございますが、この原の中間の帯状の地帯に水が全く入っていない。ひとたび日照りが続けば足がすくぽり入つてしまふほどの亀裂を生ずるという惨状は見るものの目をおおわしめるものがあるのでございます。

中間の原を除く両翼には多分の水が回っておりまゝ、こつりた部分局部的の細かい対策をどのように考えておられるか、専門的な立場から農産課長えのお考えをお伺ひたいのでございます。

いれゆるかゆいとところに手の届くという、農民に對する施策が望ましいのでございしますが、この点につきまゝてお考えをお伺ひたいのでございます。こつりた地帯はまた水害地でもあります。あの日照りに水の流が全く入ま、ていない腰越の川がひとたび大降雨となれば水が

あふれはんらんする現状をどのようにお考へになつてお
 るか。お考へを承りたのであります。そして本間
 市政が農民に働く意欲を与えられんことを望みます
 とともに根本的の対策を切に望みます。以上三點につ
 きまゝて、明確なる御答弁をお願い申し上げる次
 第でございます。

(市長登壇)

・市長(本間 譲君)

石井議員さんの御質問に對しまして、お答へ申し
 上げます。

第一番目は、公有水面の埋め立てと将来の計画につ
 いてということでございす。この埋め立て計画をする
 動機として、はまことに申し上げにくいんですが、知
 事さんが館山にいられたときに、白浜の方にいく。素通り

で誇りをあげるというふうなことでまことに考えべき、
だというふうなことからして知事さんがこられあの桧橋
付近をつぶさに御視察なられましてここを埋め立て
ていて観光施設を作つて観光の拠点というふうな
ことにしたらどうか。こういうお話しのもとにこれが進ん
でおるわけでございます。この埋め立てにつきましても
知事さんは県の方で埋め立ててやるとりうお言
葉であつたわけでございますが現在においては、この
埋め立てをした後の観光施設については、大体二社ば
かりの方々が案を県の方に提出しておるわけです。
県の方ではそれをよく調べて見てそうして考えよう
というところに計画書を県に提出してありまして県
が検討されておる段階でございます。この埋め立てに
つきましては、もちろん観光施設以外に工業用とかそ

ういうものには使う考之はなりわけでございます。市景
お話がございましたか、工業用地、工場誘致というような
ことからしますと、通産省でも指定があります。亀ヶ原
方面、三芳に至る方面を指定されておられるわけござ
ります。が、内地帯をそういう方面に供したい、しかしな
から公害を今やむような事業というものは、あまりかん
ばりくはないと思ひます。水をあまりたくさん使うとい
うことでは、館山市の現状ではすぐというわけにいき
ません。が、だんだんに水もよくなつてくると思ひます。が、工
場誘致をすれば、今申上げたような地帯に考えて
おります。

埋め立ては、館山湾の観光の拠点というように、ことに考
えて、県の指導のもとに、大体県の方でこれで行うとい
うことになれば、皆さま方にその案をお目にかけて、知

事としていれてよいかというところを検討する。またそういう
案が煮詰まれば、まず第一に漁業組合とか、地元に住民の
方々、港を利用しておる方々等、じっくり話し合つて了解
を得なければ、これが成り立たないと思ひますけれども、まだ
その事業がこうしてやつたらいいというところが現在、まだ
固まつておらないわけでございますから、何回も申しますが、
観光施設ということでも果ても考えておる。私もでも考
えておつて、果て指導を願つておるわけでございます。
あつては四十八年国体が千葉県で開かれることに内定して
おるようでございますから、ヨットハーバーの施設も果として
はあつてこよりほめはないと思ひますが、そういうことも要
望して、もうそういうことも実現すれば、果て方でも御心
配願ひたい。こういうふうな考えておるわけでございます。
また事業は結局、民間企業家によつて経営をしようと

いうことであるわけですが、私が今申し上げる段階ではございませんが、民間企業者が収支を考えなされて、計画を立てて、果ては検討願っておると思いますから、その点については心配することもないのではないかと考えております。

それから、その次は予算外支出負担行為ですか。これはただ今、お話しのように私が実は、市民は体育関係の方々の長い間、要望でもございまして、館山市民の体育向上のために、専門家を置く必要がある。こういう要望があった。それをこの四月から実現しようということで、私が方が体育専門学校というんですか。そういう指導が出来るような人を是非一つ選んでもらいたいということ、で、教育長に私がお願いしてあったわけですが、結局北条の渡辺先生ですわというお話であつたのだが、その点につきましては、

私は教育長に突き込んでそういう指導ができる人かどうか、主
張ができるというお話だったんですが、そこに詳しいことは、
教育長にお話し願うということにしまして、予算が組んで
あったと私は思っています。ところが組んでなかった。いろいろ
先生方に御迷惑をかけた。この点は非常に申し分がない
と考えております。それから現在、定員関係でございま
すが、これは実は今度の議会でお願ひしようと思つてお
まいたけれども、いろいろ関係で間に合いません。九月の中
会で定員をふやすこととす。いろいろ事業が多くなって
おまいて、事務改善で一応臨時、四五十名いたうを解
雇してやつて参ったんですが、その他いろいろ事業が盛んに
なつてきた関係で、どうしても定員増をお願いしなければ、
ならぬということとで、こゝ次の九月の議会で御審議をいた
だきたい。また、議会が議決を経ずいゝやうな点については

まことに申し分けないというふうに考えておりますが、あ
うことは教育長の方からお答えをすることになります。
千害対策につきましては、この間、議案説明するときにも申
し上げまいかとおり、五月から雨がございまして、非常に
近年にない異常気象で農作物、ことに水田は非常に
に打撃をこうむっております。植え付け不能、いろいろあて
おりますが、これについては市としましては、急拠千害対
策委員会を組織して、いろいろ各方面の委員の方々の御
意見を聞きまして対処して参るわけでございますが、
これは農地の問題ばかりでなく、飲料水についても同様
対策を講じておるわけでございますが、川から水を上げ
るポンプとか、或いは井戸を掘るとか、検討願ってやつておる
わけでございますが、いずれにいたしましても、臨時苗代を
作りまして、雨が降って植え付けができるようになったとき

にぞう苗を植え付けるといふことから臨時苗代を作りましても指導としておるわけでございます。

市としましては、このことにつきましても、できる限りこのことをおるわけでございます。

そうして農民の負担軽減をはかりたいと思っておりますが、今後このことにつきましても、やはり何としても丸山ダムが早期完成ということを進めていく必要があるかと思っております。

なおまた、堤川のせき止め工事、これは果で五千万位でやるといふことでございしますが、これもやって参りない。このうにつきましても、市の負担を軽減するために二十九日です。果、果の方に陳情していただくわけでございます。

その他、これを契機として、各地区に今後、千害対策に対する根本的な用水路とせきとか、そういうものを考えて恒久策として検討を加えて対処しなければならぬと考えて

あります。以上です。

(教育長 登壇)

・教育長(押本禎逸君)二点目につきましてお答え申し上げたい
と思います。今度市教育委員会が途中の人事
でございますが、人事という問題は大体秘密にことを運
ぶべき問題でございます。外に漏れないでなるべく教育委
員会の中よりやるべき担当の方と特に人事でございますと
果う職員というふうな立場からは出張所、御理解を最
終的に得なければならぬ。なお、本人はもうろん、学校長
或いはそれに關係した方々、さらに市の教育委員会、こつとい
うところで案を練るわけでございますけれども、こつらう元
段階の元の工作という折衝を進めて参りまして、社会
教育委員会にひとり、取員を採用する手続きの順序
を取っていただく予定です。

三月末でございますといろいろの意味で大きな異動でございますので、その一環として、もしやるかもしやせんが、そういったには予算もはっきりいたしませんし、ますので、途中人事というふうなことで、市が異動等とかね合わせてという気持等もありましたので、途中人事で仕事を進めてきたわけでございますが、いろいろやっております。す間に大体見当がつきまうたら、市が当局にお願いして予算化というふうな面を御許可いただいて、そうして果う方に正式なお願いをして、発令、こういうふうな段階に進む方針でいたわけでございます。ところがなかなか、いろいろな方に発展をいたしませんし、思うように調整、処理ができませんで、特に予算の問題を市長部局に申し上げる段階に至らないで、途中で不調に終わったのが、今度、人事だったわけでございます。

特にこのために市本人の奥さんが大へんに配ったというふうなことは、はじめて今聞いたわけですが、非常に御迷惑をかけたとつくまゝでは、私が多少のことを思いだり、なんかたということ等があるわけですが、いま一申しわけなく存じているわけですが、今後人事は人々一生を左右する。家庭生活或いは学校、社会いろいろところ、影響を多く持つものでございます。今後慎重に進めていきたいと、みずから反省をしておるわけでございます。予算外負担行為という問題でございますが、それを承知の上でやつたのではございませんで、最終的には、この問題は、市長部局で決定をまつて行なうということとは、はじめてから考えていたわけでございます。以上申し上げてお答えにかせないと思ひます。

・農林水産課長（伊藤幸太郎君）ただ今御質問の中にあまゝ江田地区の干害についてはひとりの江田地区だけではございませんで各地にあらうような状態が発生しております。特に江田地区につきましては市内におきましても有数の穀倉地帯でございます。このようなことになりますと農民の方々のお気持はいつそう大きな御苦勞があつたというふうに感じておるわけでございます。ただ今市長の方から大局につきましても申し上げたとおりでございますが、やはりこれは最終的にはこのような時期があつては困りますけれども、このような時期にも乗り越えていただく水や確保が先決問題であらうと思ひます。要房中央ダムが完成によりましてこのような水対策は一応解決することができる見通しがあるわけでございます。

さらに進みましては各地区いろいろな実情もござります。

実情に合いました水対策等を考えていく必要が確かにあるうと思います。単に中央ダムだけに依存しないで各地区ごとに実情に合った水対策を考えていかなければならぬと考えております。それから次の問題として、この水を確保した後におきまして、水を有効に使っていく算段が必要であらうと思います。

例えば用水路を完備するとか農道を整備するとかいろいろ細かい点はあると思いますが、そのような面で今後とも私の方としては、市内全域にわたります水対策につきましても十分検討して参りたい。このように考えております。

人事課長(小沢正昭君) 第二点、関係で市長部局においてただいまのような予算外、関係、実際の状況はどうなっておりますかということでございますが、これはいろいろ予算

面と現実という技術関係がいろいろございまして、当初予算を編成する段階は大体前年十一月乃至十二月になるわけでございます。その後新年度に入りまして、人事異動、部局の編成がえ等、関係で各課目別に当然異動に伴いまして分るところと不足を生ずてくるところと、こういった関係が起きて参ります。こゝろは、やはり、市、予算編成、或いは概執行のテクニクの問題としまして、その自後に処理されるということが出てくるわけでございます。従いまして、そういった予算編成されたあとで人事異動、編成がえ等、関係が起ります。また、時点で即時にやはり、予算の編成がえをいたします。これは、いふてあります。が、やはり、総合的な予算、関係もございまして、一応、予算が間に合っている段階では、ただちに補正に着手しないという、まうな形で慣習的にきておるわけでございます。

そういった関係で現在各部署別に見ますと年間とこ
うまで終るとすれば予算の不足を生ずる部署、或いは
余る部署、そういった関係は起きてくるわけでございます。
・二番（石井輝久君）質問の第一点に付します本間市長さん
う懇切なる御答弁をいただきましてありがとうございます。
千葉市原君津地区のようない工場誘致ではなくて観
光用地として海面を埋め立てを果て企てられている。
このようなお話でございます。

私ども熊山市の市民といたまいては、あゝ海岸線という
ものは非常に大切に考えております。

また海岸線は年々減少して行くのでこれを確保したいと
いう気持ち表現をオーバーにいたしますならば、死守したいと
いうような気持ちすら持つておるわけでございます。

ただいま市長さん、御答弁では果て友納知事か、

白灰にきてほうをぬぶって何か非常にまずいので、市は観光
開発上うために相まちまいてあり海面を埋め立てたらまか
ろうというお話でこゝ埋め立て案がぬれぬように承り
ました。だとするならば、私も非常に大切な海岸線と思ひ
つきうような案の観光対策の一環として埋めてよいものか
どうか、こゝの御検討をまず第一にわづらわし。一かるうちに
県の計画を進めて参たらどうか。こゝまうに考えるので
ございます。県の案がきまつてしまつた上で皆さんに相談す
るということでございますが、非常に結構なうでもござ
います。いささか順序がそれではあと先に逆うまうな気
もいたすわけでございますが、こゝにつきましては、再度御答
弁をわづらわしないうでございます。こゝ願わくば自主
的な立場からする。本間市政にこゝ海面埋め立てに
対する確固たる御方針をお伺いいたしてでございます。

県の案に従うということにもまことに結構とは思いますが、思いつきのような県の計画ということもなきにあらざるでございませう。従いまして市としてはあくまでも独自の自主的な立場を堅持していかねばならない。このように考えております。再度お答えを申し上げます。でございます。

それから第二の予算外支出負担行為につきましてでございますが、市長さんの率直な申しわけないと考えているところ、御答弁をわざわざいただくんですが、私は北条小学校の云々という教員名を上げなければいけません。市長さんから教員名が上って参ったのでやや具体的に言ったのでございます。問題はひとりの教員の人事もまたさわめて重大でございませう。

教育長さんの答弁にもありますように一生の問題でございます。

きわめて重要な問題でございますが、要は地方自治法に定められております。五款の趣旨、すなわち、議会で可決をいたす予算というものを順守していただくまで、こゝに抵触するやうな行為がないやうに逸脱したやうな行為がないやうに人事の任用については慎重を期していただきたい。いささかも議会軽視のうらみなきやうにお願ひしたい。こゝやうに考えておるやうが質問の趣旨でございます。あゝ、人事かもー。実現したとするならば、やはり私は、地方自治法第二百三十三條三に抵触したであらうということを描いて、こゝ点に關しましては、教育長さん、再答弁をわすらわないでございします。

市長さん、率直な答弁を伺ひまして、ありがとうございします。こゝ点に關しましては、打ち切ります。ただ、教育長さん、人事に關するも考え、秘密主義まことに結構

でございます。いささかでも秘密が漏洩することがあつてはならぬと考えます。一カーナガラ秘密に予算にも書かないものを秘密に進めていたことが漏れたから不適切であるということでは答弁になつていないと思います。

要するに私はただいまも申し上げまいに予算外支出負担行為があるのかないか。もちろんただ今申し上げまいにようにこれは未然にさやみでございますから行為としてはなかつたでございます。そのようなもくろみがあつたか。予算外支出負担行為になりは—なかつたか。秘密が漏洩したからではなく、くわだてた意図そのものが、すてに地方自治法に抵触—た行為ではなかつたか。意図ではなかつたか。こゝのような質問でございます。予算と人事の関係はちやうど卵とにわとり、関係そのものではございまいけぬとも、一カーナガラやはり予算は予算、

議決は議決、概執行は執行、このように分立していかねばならぬ、私は考えております。この点厳しくお考えを願いたいと考えています。再答弁をわずらわしいと思います。

さらに人事課長の御答弁でございますが、非常に親切をきわめた答弁なっておりますが、いささかよくのみ込めないうで、再度御答弁をわずらわしいと思えます。市長部局内にも同様なケースが事実行為としてあつたんですか、ということをお答え願いたい。

合わせまして先ほど御答弁にも触れておりますが、専門的な立場から地方自治法二百三十二条の三、人事課長として御解釈をお聞かせ願いたいと思っております。第三点でございますが、応急対策また恒久対策両面にわたります。市長さんはどうも皆さま方非常に御配慮

いまだきまーなことを十分認識してあります。

市長さんが触れらるまーな技術的な対策といきまーて
丸山ダム平又里川、河川せき、潮止めせきですわ。

また各地区に用水路、せきを作って不時々災害に備える
まことに結構なものと思います。一つ万遺漏ないうに今後と
も農業対策を進めていまだきない。こゝうに要望いた
ります。

伊藤課長さん御答弁、まことに結構でございますが、役所
で考えるのと農民の実感とはいささか食い違ふことがござい
ます。例えば今回が災害でございますが、むーろこつたら
失済をもうたらいうだという声すらあきらめや声すら
あるわけです。いうならば日本や農民のあきらめといひますわ。
私はこゝういふことがないまうと専門的な立場から農業の
農民の指導をしていまだきない。こゝうに考えておるわけが

いはば相談して、その実現をはかるといふことになるわけであ
果でやうなからといって必ずしも、それをうのみにする。

三ついう意味ではないわけでございます。やはりこつちはこ
つちとして、利害得失を考えて皆さまの意向も聞いて
同ドアイデアを提供する人はずいぶんあります。例えばな
くなつた人をあいては悪いんですが、長谷川鹿之助さんは左
リボーと、ああいうアイデアを提供しております。

あう人が提供者でやうな。それを会社で検討してやうなとい
こともあります。やはりやういふところを参考にしてい
のはやる。そういう姿勢のもとに果のちに検討するから
くださいといふことでやっておりますが、それをうのみにする
といふことではないわけでございます。

・教育長(押本禧逸君) 予算と人事との関係でございますが、私
が人事を推めていった基本的な気持ちの中に予算の議決

を経てから発令事務を行なうという気持は十分承知していただきでございすけれども途中人事でございすから、広く候補者の選考というふうなことを進めていく下準備がある意味ではクーセウからいき届かない点がありながら進んでしまつたためにこういうふうなことになつたと思つうわけでございすがあくまでその人事の進行過程は採用者の選考というふうなことを中心にして大体めどがついたから市当局の御決断をいただいて予算に計上さうから、発令事務をしようという考え方は持つて進んできたわけでございすので、その気持をお伝え申し上げたいと思ひます。

。人事課長(小沢正治君)第三点の人事関係全般についてでございすすが、予算外支出負担行為ということをや厳密に考えた場合は予算に計上されてゐる積算の基礎になつた措置するということは厳密に考えた場合、全部該

当することにあります。従いまして、そういう観点からいたしま
すと、それぞれ全般について、予算の実態と支出の現実性
においては、そういうことが言える時点があるかもしれません。
これは一応今まで、館山市の予算執行の形といたしまして
では、予算の整備といたしますが、これはある時点、時点で
計画いたしまして、議決をお願いするということとで処理し
て参っております。従いましてある時点、時点では厳
密に言えば、予算外支出というふうな形になつてゐる人件費
が絶対ないとはいえないかと思ひます。一か一ながら、それは
過去においてある時点で整備いたしまして、その実情を御
説明申上げて御決定をいただくと、いうふうなことになる
あります。

例えば、先月議決をいただき、一長期末手当の関係にいた
しまして、これは当初予算に計上して参りませんので

明らかに百分、十五は予算外に支出することになります。が、これは期末手当として計上願が年間相当計上さされておきますので、その中からいったん支出をしておいてある時点、それを補正して参るということになるわけでございます。現在、特、点で支出するということは、厳密に言えば、予算外支出ということになるかと思ひます。

三番（石井輝久君）市長さん、再々答弁することに懇切をきわめてありがとうございまして、市長さん、御答弁の中に、市政の独自性、自主性ということがあったように承わっております。ことに結構でございます。

果ては草案ができたならば、検討しても、不適切であった場合には、必ずしも、これに代わるものではない。このように承わります。といたしますと、いかなる検討を加えらるるか、市の執行部、独自の検討を加えらるるか、その他、

委員会乃至はそういうものを設けて加えらるるか。その
 点は將來の問題でございますので、わかりませんが、も
 不適切であるというふうな仮りに結論に到達いたしまし
 場合には、果て草案というものは、館山市から拒否さる
 こともあり得る。このように理解するものでございます。
 このように理解してよろいかどうか、再度お答えをいた
 さない。それから教育長さんへ答弁でございますが、今
 お答えの御趣旨はわかるのでございます。わかるのでござ
 います。が、議会で議決された予算というものを飛越え
 まして人事を先行させる行為、そのものが、妥当を欠いて
 いる。公けの人事でございますから、極秘の中に進めら
 れたのが、たまに漏れたから、それを予算外支出負担行
 為ではないかという指摘を受けて、心外である。こういう教
 育長さんう心境であるということも、私重々わかるのでござ

います。そういう心境であつては、私ならなと思います。

そうではなくて、やはり、これだけ必要だつたら必要なという数字を議会で議決したうで、その後人事を進めるうが、本来の趣旨ではないか。こゝうに考えております。

これはいささか話が飛びますが、例えば、消防長や人件費にいたしましても、人事よりも予算が確か先行しているうに承わつております。人事を先行さして予算の議決をあと回りにするうは、本来転倒せざるを得ないうであります。こゝ点に対する教育長さんは大体お考えはわかるうで、ございますが、再度御答弁をいただきたいうでございます。人事課長さんでございしますが、私は例として期末手当などを示すのは、愚意もはなはだしいと言わなければなりません。あつては提案したもうを当議会におきまして議決をしておる。ですから議決したもうを支出執行しても一向さうつか

えはい。何か答弁がおかしいではないか。こゝろに考えます。さらに申しますならば、厳密にいうと、全部が予算外支出負担行為に該当しているというお話ですが、それは、そのようないことも一面あるものでございませう。ただ、その点に關しましては、深くは触れないでござりますが、市長事務局内に同様なケースが事実行為としてありませうかどうか。

この点をさらに伺いたいのでござります。合わせて考え方といふまゝでは往々にしてそういう行為はあるかもしれない。ませんが、往々にしてあるとしても、考え方はあるから、予算外支出負担行為をいつもいつかという考えであつては、私は、議会軽視もはなだしい。こゝろに考える。民主主義の原則にのっとりまして、そのやうなこゝろないやうに、人事課長ともあろう者が、そんなことはあたりまえの行為だといふ考えでなく、厳にいまゝめていたがたい。こゝろに考えます。

期末手当の点は別といたしまして、事實行為として、有無を再度お答え願いたいと思います。

市長(本間謙君)　ただ今果の計画が合わないば拒否するか、そういうお話でございますが、拒否するというのがあります。ことがおだやかでないように思われます。そうではなく私はそれを検討してこちらの土地に合わないものは修正をして、そうして、やつていただくのか。そうしてこの実現をはかりたい。拒否というのと、ちやうと果に対しても工合がわるいから、そうでなくよく調べて見まいて、この土地で工合が悪いというときには、相談の結果、実績に合うようなことで実現を期したい。こういうことでございます。

・教育長(押本禧逸君)　御答弁がーにくくなつてきたんですが、予算書と提出する前に私もは、その候補者をいろいろの形で拾い集めてくるわけでございますが、そうして、

二 山 田 清 三
こころがところが適任者ではないかというときに予算を
市の方へ提出しても願います。こういうことをするわけで
ございまして、その予算書を提出する前々仕事を進め
きて、そこが最終的には予算とくらみ合わせがつくという
時間がありませんで、今回はその仕事がこの人事
がストップになった。こういういきさつでございします。

・人事課長(小沢正治君)第三点でございしますが、御指摘の教育
委員会関係で御指摘されておりますような関係は市
長事務局には過去なかったと確信しております。将来もそ
うようなことが絶対起らないように十分注意していきな
いと思ひます。

・二番(石井輝久君)時間がないうでございしますが、市長さ
んの御答弁でございしますが、修正ということでエ合がわ
るい場合には拒否ではなく、又わらかく修正をしていただ

くうだという御答弁でございます。趣旨はよくわかりました。
これで了解いたします。ただ果て案に盲従するのではなく
自主性をもって市の実情に合いたくも修正もあり得
るうではないかということ私理解して市長さんに対する
質問を打ち切ります。

それから教育長さんでございしますがどうもみずからおつ
しゃつておられるようにお答えにくいようなデリケートな問題に
なるかと思いますが、大体市長さん自身も答弁の中にございま
す。たまたまに体育の専門学校を出たような人を入れて社会教
育の振興をはかろうとかという御発議であつたように承
わつております。そういう答弁をいたしてまいります。

それからながら私は先ほども申し上げましたようにそれとはど
こが学校うごなつたかということ。それから教育委員会
内、何課に起用しようかということについては難触れな

ったはずでございます。

皆さまで方触れてもらたうで、~~お~~ちと、デリケートになり
まいたが、少なくとも市長さん、発意と組上り、ぼりま
た人事とは非常に隔たりがあつたように承わつており
ます。それは、それとして、自給法の問題については、深くは
触れておらないものでございすが、今後人事^任事^にに用い
つゝまゝでは、不安、動議を与えないようにまた、平法、
本来の趣意に、さうさうにも考えをいせださない。二のよ
うに考えます。二の三問題につまゝして、質問を打ち切
ります。

人事課長さん、方でございすが、市長事務局におい
て人事、在任用面、予算外支出負担行為は過去において
もなかつた。今後においても、ないやうにするというお答えで
ございします。二の三点につまゝしては、そのやうにあつては、

と考えております。これは収入役があらねないでござい
ますが、もし、そのような行為があった場合には法律の定める
ところによります。支払った額を返還しなければならぬとい
う規定もございます。簡単に全部該当するやうでは
ないかというお話も先ほどございまして、それが、そういう考えで
なく、やはり法令の定めるところに従いまして、きびく厳し
くお考えをいただきたい。あくまでも民主主義のルール
でございます。いうまでもございせん。絶対なかつたとい
う話、信用いたしますが、私も再調査さしていただきます。
以上をもちまして質問を打ち切ります。
議長（吉田勇治郎君）これで通告も質問を終わります。
暫時休憩いたします。

午後五時三十分

休憩

午後三時五十分 再開

議長（吉田勇治郎君） 午後の出席議員数二十八名。

休憩前に引き続き会議を開きます。

日程第二議案第三十三号を上程いたします。

こゝ際申上げます。

議案第三十三号乃至第三十六号の内容説明は先日會議
のうちに終つておりますので、本日はただちに質疑より
行ないます。 議案第三十三号の質疑を行ないます。

一番（西村真次君）異議があるわけではございませんが、参考
までにお尋ねしておきたいと思ひます。

今回の市税条例の改正を一つ一つと見ますと、個人市民税
その他が、免税点が引き上げられて、一応減税といふ
ことが考えらるわけですが、その中にあって法人

税、たゞは消費税、こゝが値上りしてあります。こゝが差引
き、まゝして市税、税金総額でどう程度増減が見込
まれるか、こゝが第一点でございます。

それから改正条例三十一條に關係することですが、三
十條第一項第三号の法人の中で資本金一千万を越
えるものが幾つ位あるか、また越えないものが幾つ位あるか
なお、同条同項第四号に該当する法人で事務所は
こゝにはないけれども寮やなんか、こちらにあるというも
うの法人がどう位数があるか、それからもう一つ、事務
所があるけれども法人でない社団、財団、そういうものが
幾つ位あるかないやか、それともう一つ、三十一條の第
三項、最後の方、一月数は暦に従つて計算し、一日に満
たないときは一月として一月に満たない端数を生じたところ
は切り捨てる、という語句になつておりますが、こゝ

は、どういふ意味であるのかはつきりしませんので、教えて
いただきたいと思います。 以上、簡単に結構です。から

御答弁いただきます。と思います。

・調査課長（高木哲三君）第一点でございますが、確かに上り
まーたりが、法人、市民税と、たばこ消費税でございますが、
たばこ消費税の方は、住民税、減税措置に伴う減税を
補てんするため、増税でございます。という程度、
ことはあつてございまして、た。

第二点、一千万以上越える法人の数でございますが、調
べてございしますが、ここに持つてきておりません。うちほど
発表いたします。

第三点でございますが、月割課税でございますが、二十五日は
一月とするということでございます。一月に満たない場合
です。一月と二十日は一月、二十五日は一月で

ございまして二十五日は一月で二十五日以下は切り捨てとさせていただきます。

一々番(西村真次君) どうも私う二点については二点とも御答弁がでない。こゝ改正がもう少一早くからおわかりになつておつたと思ひますが、そういうことを申し上げててもやむを得ませんけれどももう少一御勉強をなさうな方がいひではないかと思ひますが、三日月う二十五日から一月という二点ですが、最初う一月に満ちないときは一月と一二月と。こゝ一月と。そう次う一月に満ちないという一月はどう違ふのか。一月に満ちないといううは上も下も同トでしよう。やはり瑞数が出ておるといふことでしよう。そう上う方は瑞数を切り上げて一月とする。下う方は切り捨て。こゝ一月は

議長(吉田勇治郎君) 暫時休憩いたします。

午後四時

休憩

午後四時四十三分

再開

議長（吉田勇治郎君）休憩前に引き続き会議を開きます。

調査課長（高木松三君）大へんどうも申しわけございません。

ただ今、四号該当でございますが、静海荘、果庁、共済組合と国鉄、共済組合と、こゝ三件でございます。

資本金一千万以上、分割法人で五十三、その他、法人で六でございます。

それから、月々計算でございますが、これは設立や解散等の場合、月割計算でございます。一暦に従って計算いたします。が、設立の場合、端数があっても一カ月に切り上げ、解散等の場合は月なかばでやめ、場合によっては、端数は切り捨てるといふことでございます。

一〇番（西村真次君）ちよつと聞き漏らしたんですが、市税全体で増減がどういふふうに見込まれるか。その額答弁がありませんか。
調査課長（高木松三君）そうデーターは出てございませんでした。

一〇番（西村真次君）だいたい時間をかけて慎重にデーターをお出しになったわけですから、御答弁にこの程度で了承いたします。市税というものは、市財政の最大な根幹をなすわけであつて、従つて市民の生活に本当に直結している重要な事項であるから、これが税条例の改正によつて変動を生ずるとどういふことは、ことさらに重要な意義を持つわけでありまして、こういう点については早くからいつでもデーターをみせるように勉強しておかなければいけないはずだと思つたわけでございします。そういう点で大へんきょうう御答弁は、私は遺憾に存ずるわけでございします。どうか今後十分勉強をしますように。

特に私は要望いたしまして質問を打ち切ります。

議長（吉田勇治郎君）おはかりいたします。本案を討論省略
原案通り可決することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（吉田勇治郎君）異議なしと認めます。よって本案は
原案通り可決確定いたしました。

日程第三議案第三十四号を上程いたします。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（吉田勇治郎君）おはかりいたします。本案を討論省略
原案通り可決することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（吉田勇治郎君）異議なしと認めます。よって本案は
原案通り可決確定いたしました。

日程第四議案第三十五号及び議案第三十六号を上程

いたします。

・二五番(田村源治郎君) ちよとお聞きますが、土地の所有者はだれであるか。

・庶務課長(山口実君) このが議決されましたあかつきは、果知事に報告されました。それが公認されました。その結果、埋め立て施行者に返るわけでございます。

・二五番(田村源治郎君) 施行者はだれですか。

・庶務課長(山口実君) 高尾浩船舶株式会社。

・議長(吉田勇治郎君) おはかりいたします。本案を討論省略原案通り可決するに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(吉田勇治郎君) 異議なしと認めます。よって、本案は原案通り可決、確定いたします。

おはかりいたします。ただいま小沢恵太郎君ほか六名。

議員君より議案第四十一号 農業委員会より委員となるべき学識経験者より推薦についてが提出されました。この際、これを本日午前日程に追加し、ただちに議題といたします。こゝに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君) 異議なしと認めます。よって本案は原案通り可決確定いたしました。

おはかりいたします。ただ今、小沢忠太郎君ほか六名より議員君より議案第四十二号 農業委員会より委員となるべき学識経験者より推薦についてが提出されました。

この際、これを本日午前日程に追加し、ただちに議題といたします。こゝに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君) 異議なしと認めます。よって議案第

四十一号を日程に追加—議題とすることに決まりました。

議案を配付いたします。

(議案配付)

・議長(吉田勇治郎君) 議案、配付漏れはございませんか。――

配付漏れなしと認めます。

議案第四十一号を議題といたします。

(書記朗読)

議案第四十一号 農業委員会委員となるべき学識経験者

の推薦について

・議長(吉田勇治郎君) 本案、提案者、説明を求めます。

(ニニ番議員登壇)

・ニニ番(小沢忠太郎君) ただいま追加上程されました議案第四十一号につきまして提案者を代表して説明いたします。

お手元に配付の議案のとおり、豊房の吉田忠雄氏を最

適任者と認めまして推薦いたしたいと思っております。なにとぞ満場御賛成をたまわりたくお願い申し上げます。
提案説明にかえさうしていただきます。（拍手）

議長（吉田勇治郎君）おはかりいたします。本市農業委員会委員に安田忠雄君を推薦することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（吉田勇治郎君）異議なしと認めます。よって本市農業委員会委員に安田忠雄君を推薦することに決めます。

おはかりいたします。本定例会に付議さしめられた議事は以上をもってすべて議了さしめられた。よって会議規則第七条の規定により、本日もつて第二回定例会を閉会することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君)異議なしと認めます。よって本定例会は本日をもちつて開会と決まりました。

午後四時五十分 開会

本日の会議に付いた事件

一、通告質問

一、議案第三十三号乃至第三十六号

一、議案第四十一号

出席議員

吉田 勇治郎

石井 輝久

鳩田 石蔵

伊賀 多朗

藤田 益治

磯辺 博

白熊 盛太郎 黒川 正

三幣 勇 西村 真次

菊井 敏博 小柴 孝

山田 教字 遠山 三平子

石井 正 五十嵐 昇

江田 徳太郎 島野 茂樹郎

中村 省吾 関 武夫

小澤 恵太郎 飯田 義男

田中 祿郎 田村 源治郎

秋山 大三郎 安沢 徳順

望月 照正 鈴木 市蔵

山口 康

大席議員

安西 益男

※席説明者

一 第一日目と同じ

出席事務局職員

一 第一日目と同じ

昭和四十二年七月三日

右会議の次第を録しここに署名す。

徳山市議会議長

吉田 昭信

同 署名議員

鈴木 邦光

同

嶋田 石光

